

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

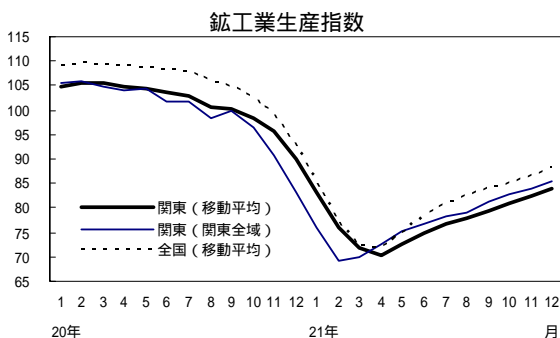
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。(関東全域)

輸送機械は、海外向けや政策効果等により普通乗用車及び普通トラックなどで、増加している。化学は、フェノールや合成ゴムなどで、増加している。一般機械は、海外向け自動車用のプレス用金型や印刷機械などで、増加している。電気機械は、一般用タービン発電機や非標準変圧器などで、増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。
2. 全国及び関東の太線は後方3か月移動平均。

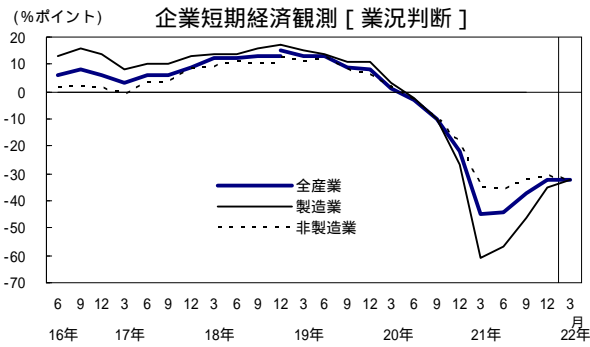
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
輸送機械	15.2	21.7	14.6	16.1	2.5
化学	13.4	1.5			
一般機械	13.2	5.4	19.1	17.8	16.0
電気機械	7.8	2.7	5.6	4.9	9.8
食品・たばこ	7.1	0.6			
鉱工業	100.0	6.4	5.7	6.5	2.9

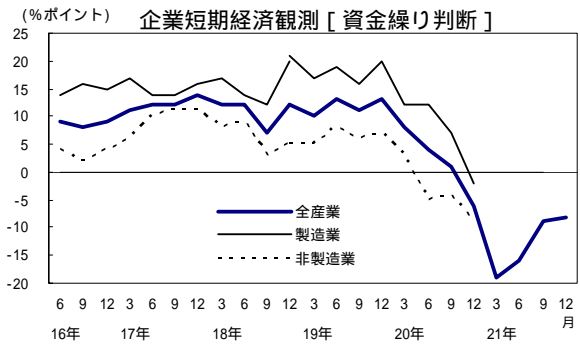
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10~12月期は速報値。化学、食品・たばこは、速報値では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

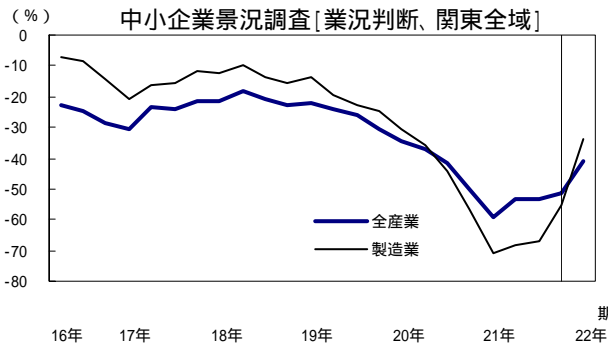
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年3月は予測。
18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月は新・旧基準を併記。日本銀行横浜支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

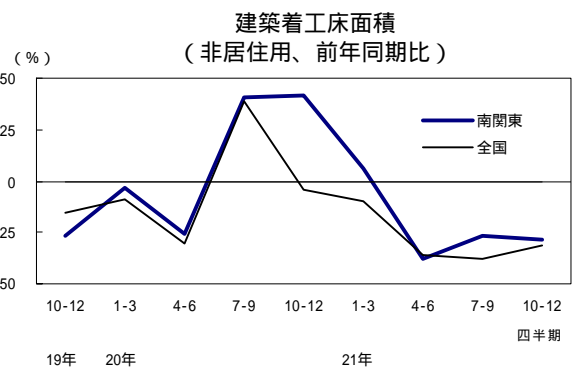
「製造業では、一時期より受注量が回復してきているが、景気の二番底を危惧しており、設備投資に関しては依然として慎重な姿勢である(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	8.7	22.9(1.2)
製造業	11.5	25.5(1.7)
非製造業	2.7	16.2(0.0)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。
調査対象は神奈川県。



(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

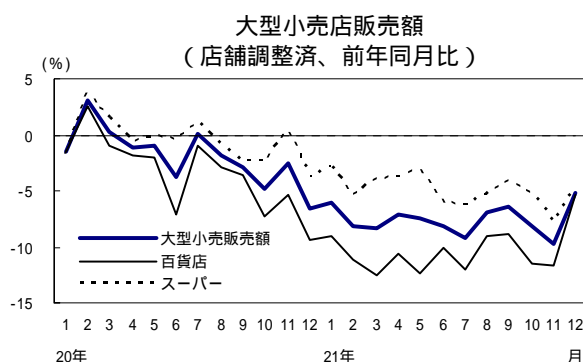
大型小売店販売額

百貨店は、10月は、下旬からは冷え込みの影響もあってコート等にも動きがみられたものの、全体としては衣料品、身の回り品を中心に振るわず、前年を下回った。11月は、歳暮やおせちは堅調であったが、衣料品、身の回り品は依然厳しい状況で、全体としては引き続き前年を下回った。12月は、おせちやクリスマスケーキは好調であったものの、飲食料品全体では低調で、衣料品、身の回り品が、前月よりも前年比の減少幅が縮小したが、全体としては前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の1月の売上高は前年同月比7.4%減となっている。

スーパーは、消費者の生活防衛意識は依然として高く、飲食料品の売行きも低価格商品が中心となり、衣料品、身の回り品も依然低水準で、全体としても前年を下回った。

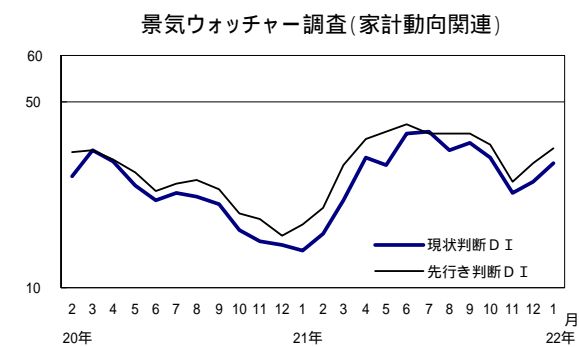
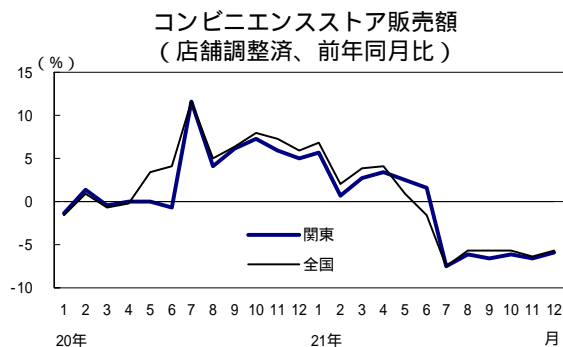
景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「初商いの来客数は昨年以上だったが、売上は前年並みである。福袋は昨年より減少し、客は必要なブランド、アイテムのみの購入にとどまっている。クリアランスセールもまとめ買いが少なく、吟味した買い方が目立っている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同月比、%)			
	21年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	7.4	7.5	7.6	7.5
百貨店	10.9	11.1	10.3	9.2
スーパー	4.0	4.3	5.3	5.8
乗用車	27.6	20.2	1.6	16.1
景気ウォッチャー	22.9	39.2	41.4	33.8

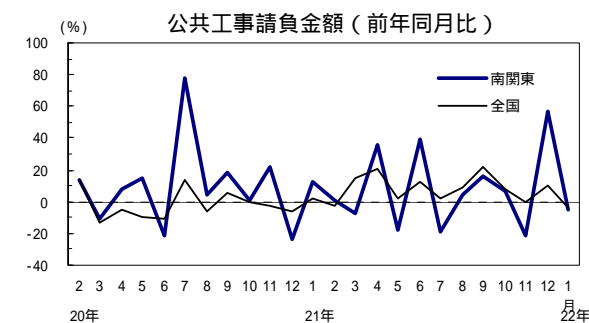
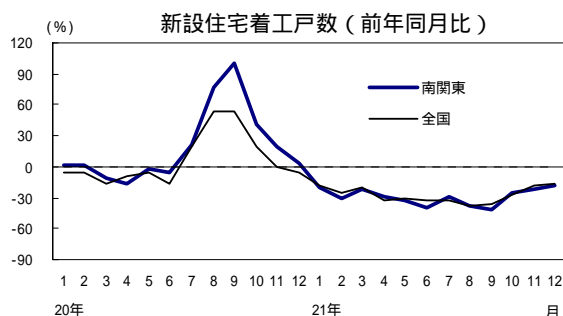
(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。21年10-12月期は速報値。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

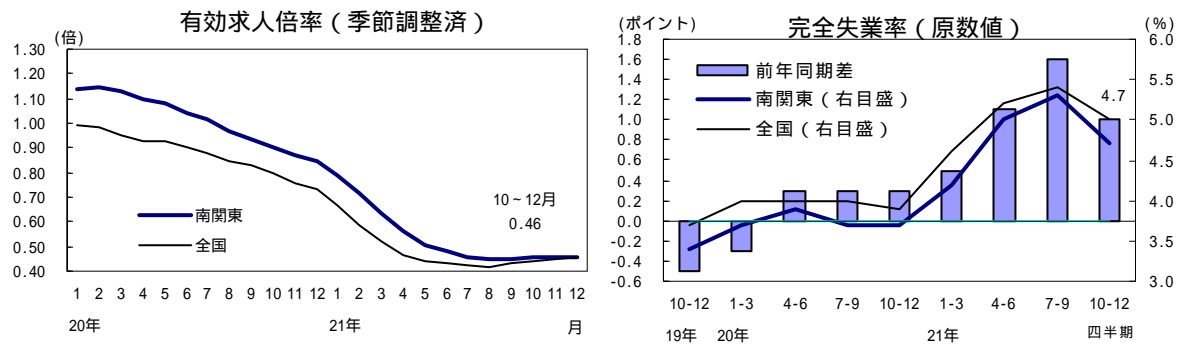
貸家、分譲が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。



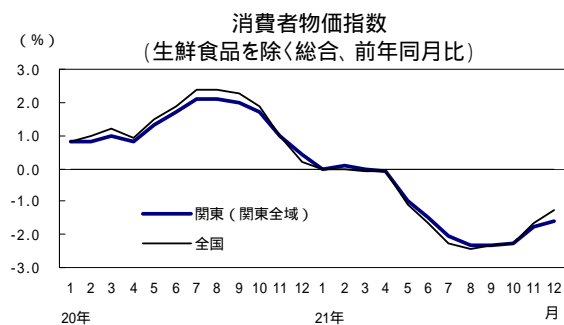
景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連(現状)]

「一部の半導体関連企業等からの求人や採用は増えつつある兆しがみられるが、まだ回復といえる段階にはない(民間職業紹介機関)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。
1月に負債総額が大幅に増加している。
(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	22年1月
倒産件数 (前年比)	1,321 28.1	1,249 12.2	1,263 4.3	1,040 14.2	357 15.0
負債総額 (前年比)	18,943 223.3	6,553 19.4	3,904 93.1	2,945 76.1	24,284 735.0



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・新春初売で受注獲得が大きく進み、最終の週末フェアを残して、今月の受注は前年実績を越えている。目標台数には達成しなかったが、前年比、前々年比も確実に大きく改善している(乗用車販売店)。

<先行き>

- ・大手企業の輸出関連が活発に動き出してきたため、これから先の受注見通しに多少明るさが出てきている(電気機械器具製造業)。

